

I 研究主題

主体的に学習に取り組む生徒の育成

～ 効果的な学びの過程の実現を目指して ～

II 研究の内容と具体的方法

1 具体的内容

(1) 効果的な学びの過程を重視した学習活動

- ア 主体的・対話的で深い学びを意識した継続的な授業実践（一人一実践授業の提供）
- イ ICT 機器を使った授業実践・理論学習
- ウ 特別の教科道徳

(2) 言語活動の充実

- ア 効果的に新聞を活用した実践（NIE）
- イ 日常的な取組（ライフ指導、学活、各教科指導）

(3) 望ましい学習集団づくり

- ア Q-Uの分析と結果を活用した取組
- イ 保護者や地域との連携（家庭学習他）

2 研究の方法

- (1) 講師を招いての学習会（3回）
- (2) 授業研究会（2回）
- (3) 一人一実践授業の提供

III 成果と課題

1 成果

- ・将来の予測が難しい社会において、伝統や文化に立脚した広い視野をもち、志高く未来を作り出していくために必要な資質・能力を子供たちに育成していくべく研究テーマを設定でき、それに向けて研究を進めることができたと思う。
- ・習得、活用、探究という学習プロセスの中で問題発見、解決を念頭に置いた深い学びの過程を実現するために、共通理解しながら、ICT 機器の活用や道徳科へ向けた実践等に取り組むことができた。
- ・各教科で研究の深めるための授業実践に積極的に取り組むことができた。ICT 機器の活用という面では、電子黒板機能付きの 프로젝タを研究授業等で積極的に取り入れ、その効果を確認することができた。来年度も積極的に活用していきたい。
- ・道徳の授業では、教科化に向けた新しい指導案を通しての研究ができたのでとて

も良かった。

- ・ N I E コーナーの設置だけでなく、放送による発表や掲示、意見交換等の日頃からの取組が充実していたので、その成果をストックしておきたい。（アンケート調査等も含めて）
- ・ 放送による新聞の感想発表を年間を通して継続できたことは、成果の1つだと思う。自分が読みとったことを全校に発表することで、読解力だけでなく、表現する力もつけることができたのではないか。
- ・ 生徒会を中心に、「今日のN I E タイム」を行い、全校生徒が一人一人、放送を使って発表を行った取組を行った。生徒たちにとって自分の興味関心に応じて新聞記事を選び、要約して、自分の感想を発表することで、日常生活の中で新聞記事を読もうという姿勢が養われ、とても良い取組である。来年度も続けていきたい。
- ・ 懇談会や授業参観の後に保護者から学習についての話を多く聞くことができ、家庭でも学習の様子を見ていただけているように感じた。
- ・ Q - U の分析方法、N I E や I C T、特別の教科道徳について、その道の専門家をお呼びしての学習会は、最新の情報を得る良い機会となり、今後の研究実践に向け非常に参考になった。
- ・ I C T 機器の良さを知ることができた。生徒の理解度ややる気を引き出せるような使い方をまた研究していきたいと感じた。
- ・ 他教科の授業実践を参観することも自分になかった様々なアイデアの学びにつながるので勉強になった。

2 課題

- ・ N I E の取組について、感想が感想で終わってしまっている生徒も多いので、「なぜ、そう思ったのか。」とか、「その記事から新たに考えたこと」、などの思考を深める訓練もできたら更によいと思った。
- ・ K - 1 3 法の学習会を生かして、「学習集団づくりアセスメント・対応策シート」を活用した共通理解をしたかった。
- ・ 家庭の協力なくして学力向上は望めない。家庭との連携をどのようにしていくか今後も考えていかなければならない。
- ・ 研究内容や取り組んでいることを、各種通信、授業参観や P T A 総会等を活用し、積極的に啓発活動を行っていけると良いと思う。
- ・ 校内研の中で、部会研究（I C T、N I E、道徳）があっても良いと思う。

IV 成果物

英語科指導案，道徳指導案，一人一実践，H - Q U 分析結果，定期試験取組表，各学年の家庭学習の取組

（研究主任 三枝洋介）